

平成27年 8月 3日

井原市議会議長
上野 安是 様

井原市議会議員 河 合 謙 治

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実 施 期 間	平成27年7月28日（火）～7月29日（水）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	1) 福岡県福津市 福津市役所 商工観光課 2) 特別講演（元武雄市長 樋渡啓祐氏）
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	1) 買物支援モデル（宅配サービス）事業 イロイロお届け便についての調査研究と見学 2) 地方創生、地域活性化の研修
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	○商工観光課 課長 本多 研介 係長 安永伸一郎 ○市議会事務局 議事課長 小田 雄一 ○樋渡 啓祐（元武雄市長）
5. 活 動 内 容	<p>★福津市の概要</p> <p>○平成17年1月に旧福間町と旧津屋崎町が合併して誕生した市である。市の総面積は52.7km²、人口は平成27年3月末現在59,293人、世帯数は24,396世帯である。</p> <p>★買物支援モデル（イロイロお届け便）について</p> <p>(1) 事業の目的</p> <p>①中小企業振興 ②高齢者等の買物支援及び見守り</p> 

5. 活 動 内 容

③高齢者雇用

(2) 事業の内容

全市民を対象に、食料品や日用品等の宅配サービスをモデル事業として実施し、事業は、福津市商工会へ事業費を補助し、福間駅前商店会が行う。なお、高齢者就労支援のため、福間市シルバー人材センターが宅配業務を担う。

(3) モデル期間

平成25年2月15日から平成29年度までの約5年間のモデル事業である。

(4) 宅配概要

営業日 月～日（土日は予約注文のみ）

休み 年末年始

受付時間 9～12時、13～15時

配達時間 13～18時(午後受付分は17～18時)

利用者料金 無料(買物2,000円未満は300円)

(5) 仕組み

利用者から加盟店に電話注文をし、加盟店から注文票FAXでシルバー人材センターに連絡をし、利用者に配達・集金をする。シルバー人材センターは、商工会・福間駅前商店会に利用者報告をし、宅配料等を支払ってもらう。福間市は、商工会・福間駅前商店会に補助金を出す。

(6) 加盟店

22店舗（平成26年度末現在）

(7) 利用者数

545件（平成26年4月～平成27年3月）

1日当たり利用件数2.21件

★所感

中小企業振興策としても、市、商工会、JA、漁協等との協同事業としては、非常に良い策ではあるが、事業開始後2年以上たっても、1日当たりの利用件数が平均2.21回と余り利用率が良くない。

井原市に導入する際には、利用率の低迷の原因を十分に調査して導入しないと同様な結果になってしまうことが懸念される。

☆地方創生、地域活性化にむけて（基礎編）

○武雄市での取り組み

新聞の見出しを考えてやっていた。(新聞にのる事はすごい)

メディアにのらないといけない

○フェイスブックを用いることで

何が起きたか

市報の満足調査をすべき。

○自治体経営の改革と情報発信

有名人と写真をとる。



5. 活 動 内 容

○これからの地方議員にむけて
組む、スピード、見える化

☆地方創生、地域活性化にむけて（応用編）

○100万人が来る図書館
TSUTAYAと共同で実施

○自治体競争を生き抜く勘所
儲かる自治体

○武雄市での教育改革
官民一体の学校（学校＋学習
塾）

○ふるさと納税制度の活用方法
インターネット（現行）から
スマホ活用（これから実施）する。



☆所感☆

講演自体は、地方創生、地域活性化にむけての話ではあるが、内容的には、9割が過去の自分の実績（自慢話）で、1割はこれから自分がする仕事の必要性を語るものであった。

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。

2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

様式第2号（政務活動実施報告書）

平成27年 8月 4日

井原市議会議長

上野 安是 様

井原市議会議員 柳井 一徳

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	平成27年7月28日～7月29日
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・陳情活動先	1) 福岡県福津市中央1丁目1-1福津市役所 商工観光課 2) 福岡市博多東特別講演（元武雄市長樋渡啓祐氏）地方創生、地域活性化に向けて（基礎編、応用編2講座）
3. 研修会等の名称 または視察、要請・陳情活動内容	7月28日 13:30～16:00 福津市役所に於いて買い物支援モデル（宅配サービス）事業イロイロお届け便についての研修及び議場見学 7月29日 地方創生、地域活性化の研修 基礎編10:00～12:30 応用編13:30～16:30
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・陳情活動先の担当者名	7月28日福津市役所 商工観光課：本多課長、安永係長 受け入れ窓口 福津市議会事務局：小田課長、八尋係長 7月29日 元武雄市長樋渡啓祐氏
5. 活動内容	市内商店街活性化及び買い物弱者支援対策としてのモデル事業への取り組み状況の研修 地方創生、地域活性化に向けての元佐賀県武雄市長の樋渡氏による知名度向上のに向けた情報発信の大切さや基金を有効に使い税収アップに向けた事業計画などユニークな方法論の講習 詳細は別紙のとおり

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。

2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

研修報告書（柳井一徳）

N01

福津市での買物支援モデル事業研修についての報告書（7月28日13:30~16:00）

福津市では商工振興策、買物弱者対策、高齢者雇用対策として平成24年12月定例議会にて補正予算を計上、平成25年2月から平成29年度までの5年間のモデル事業として展開、平成30年から事業の独立を目指している。



このモデル事業の背景には大型量販店による商店街の売上落ち込みや、本市が福岡都市圏内で高い高齢化率が挙げられる。（平成26年度末現在27.6%の高齢化率）

事業の目的として中小企業振興、高齢者の買物支援及び見守り、高齢者雇用の3点が有り全市民を対象にした食料品などの宅配サービスモデル事業である。

高齢者雇用はシルバー人材センターにより1人専従（交代により休日を取得）で宅配業務を行い、事業は商工会内の駅前商店会が、事業費は商工振興のための市補助金で賄っている。

加盟店舗数は平成26年度末、22店舗で当事業趣旨に賛同の店舗のみ加盟店として指名している。営業日は土日予約注文のみで月曜から毎日である。会員制ではなくいつでも買い物宅配を受けられ、利用金額は基本無料で2,000円未満の買い物に対して300円となっている。

平成26年度の総売上は約164万円で利用者の年齢構成は60才~80才代が中心となっている。

本市でも高齢化率は年々向上しており、車社会による生活基盤の中、特に山間地域では過疎が進み高齢者中心で公共交通機関も営業収益が上がらず1日1便を余儀なくされている現状で買い物弱者に対する対策は必要不可欠ではないかと考える。

現在、民間の移動販売車が中心となっているが、これからは行政も積極的に補助金なりの施策を打ち出し官民一体となり、この現状打破を図らねば、益々過疎化は進み限界集落のみが増える状態となるであろう。

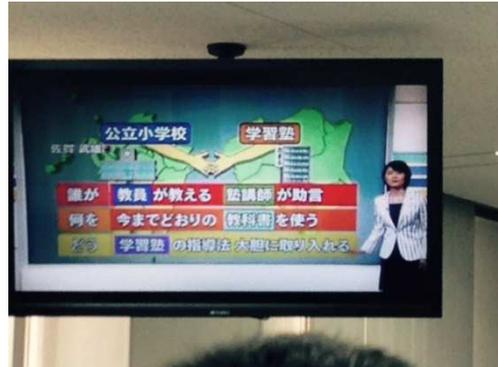
『他岸の火事』として眺めるのではなく、行政の英断を心から願う今回の研修であった。

No2

地方創生、地域活性化に向けて（7月29日10:00～16:30、途中休憩含）

元武雄市長の樋渡氏の講演（約120人の議員参加）は市長就任時の武雄市の低かった知名度アップに向けての活動話から始まった。

大学生100人に武雄市を知っているかどうか尋ねたところ10%未満という悲しさから彼の首長としての仕事はスタートした。



市政全般は副市長に任せ、本人は図書館とTSUTAYAの合体、公立小学校と学習塾とのマッチング授業、ハーブ茶などを伊勢丹新宿店への売り込み成功、全国、地方すべてのマスメディアへの登場など異常とも思えるほど精力的に動き次々に成果を上げていった。

口癖のように話され講演中何度も耳にしたのは「自治体にお金が無いというのは嘘であり必ず基金はある」という言葉である。

成果の裏には基金などを有効に使い、最終的に市民サービスに繋がる事業をどんどん打ち出し行動を伴っていることが挙げられる。

政策とは物語と同じで市民が喜ぶストーリーが大事、図書館も、新聞、テレビなどのマスメディアへの登場も物語を見える化し、スピードを付加価値としなくてはならない、即決断が首長に課せられた地方生き残りの使命とも話された。

TSUTAYAとの共同図書館も議会に話を上げる前にいち早く、先方社長に面談を求め契約を決断、他に追随を許さなかったのが全国的に注目を浴びたのである。このように同氏の考えの根底にはスピード、情報の収集と分析、素早い発信、誰もが思いつかないアイデア、物語と行動力があると思う。

本市においても先進地のいいところは「MP」（講演中、彼が話していた）モロパクリしてもいいのではないかと思う。それが最終的に市民サービスに繋がるのだから。

基金を有効に使い、井原市の良さを、強みを伸ばし特化し、もっともっと全国に向けて情報発信して生き残れるよう市長には前向きな攻撃的な舵取りを期待し、我々議会もどんどん後押しすべきと再度強く感じた研修であった。

様式第2号（政務活動実施報告書）

平成27年 8月 5日

井原市議会議長
上野 安是 様

井原市議会議員 三宅 文雄

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	平成27年7月28日（火）～7月29日（水）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	1) 福岡県福津市中央1丁目1-1 福津市役所 2) 福岡県福岡市博多区博多駅東1丁目16-14 リファレンス駅東ビル5F
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	1) 買い物支援モデル（宅配サービス）事業 【イロイロお届け便】についての調査研究 2) 地方創生、地域活性化にむけて【基礎編】 同、同 【応用編】
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	1) 福津市 議会事務局 議事課長 小田 雄一 様 同局 議事係長 八尋 正文 様 地域生活部 商工観光課長 本田 研介 様 同部 同課 商工・ブランド係長 安永紳一郎 様 2) 元佐賀県武雄市長 樋渡 啓祐 様

5. 活 動 内 容

1) 買い物支援モデル（宅配サービス）事業
【イロイロお届け便】について

- 福津市の高齢化率について
 - * 平成26年度末での高齢化率は27.6%。市民4人に1人以上の方が65歳以上の高齢者である。
- 事業の実施主体について（市・商工会・商店会・シルバー人材センターとの協働関係について）
 - * 市が福津市商工会へ事業費を補助し、福間駅前商店会の加盟店（22店舗）が事業実施する。
 - * 宅配業務は高齢者雇用対策として、シルバー人材センターが行う。
- 対象商品の応募方法及び選考方法について
 - * 当モデル事業の趣旨に賛同した店舗のみを加盟店として指定した。
- 対象商品（品目）を選定する上での考え方について
 - * 当初は食品・日用品（刺身などの鮮魚は除く）を主体に扱う店舗のみでしたが、利用者の多種多様なニーズに対応するため、雑貨や薬品、花等を扱う店舗にも声をかけ加盟店になっていただいた。そのほかには、弁当、本、文具、薬、化粧品、花などの店もある。
- 商工会との連携で、非協力的な商店への対処について
 - * 当モデル事業に賛同いただけるということが大前提であり、商店会に加入しているということのみで認可をするというようなことはない。
- サービス対象者について（全市民を対象とされているが、会員制か否か。会員制の場合、その会費及び徴収方法について）
 - * 事前登録、会費は不要である。加盟店からの連絡に対し、シルバー人材センターが登録。利用実績等の統計も当センターが行い月締めで報告してもらっている。
- 商品配送をシルバー人材センターが行っているが、その配送コストについて
 - * 平日は1日当たり5,750円 【時給800円×5.5時間＋（12時半～18時）＋事務費660円＋諸費690円】
 - * 休日（土日）配送は1件当たり510円。
 - * 注文なしの日も上記（5,750円）。事務作業やチラシのポスティング（高齢化率の高い地域）等を実施。
- 野菜、魚などの生鮮品の配送方法について
 - * 生鮮品の配達については、福間駅前商店会提供のクーラーボックスに保冷材を入れ配送している。入りきれない場合は、加盟店の責任で梱包・保冷を行っている。

- 平成30年までのモデル事業とし、その後は、独立採算による自主事業を目指すとされているが、その工程・計画内容について
- * 平成25年2月15日から事業開始、平成29年度までのモデル事業であり、期間中に利用者の意見等を聞きながら問題点を整理・改善し、より利用しやすく地域に密着したシステムやサービスを確立していきたい。

- 事業の周知方法について
- * ①広報掲載（市の広報誌）、チラシ折込み
- * ②新聞記者へ情報提供して、新聞掲載
- * ③RKBラジオ「ふくつのじかん」等での紹介
- * ④民生委員会での説明、周知
- * ⑤シニアクラブ連合会での周知
- * ⑥チラシのポスティング（高齢化率が高い地域）

所見

平成17年1月に、旧福岡町と旧津屋崎町が合併して誕生した福津市、北九州市と福岡市のほぼ中間に位置し、特に福岡都市圏との関係が深い。平成19年から平成26年にかけて実施した、福岡駅前区画整理事業の完成に伴い、新しい街づくりも形成され、人口も年々増加傾向にあります。また平成25年には大型商業施設のイオンモールが出店してきたことで、昔ながらの商店街をめぐる環境は一段ときびしさを増してきました。このような社会情勢の急激な変貌により、市は商店をはじめとする「中小企業振興策」と、近年、問題になっている高齢化率の上昇による「買い物弱者化対策」、そして高齢者雇用対策、それらを解決するために何らかの対応策が求められていました。これらの課題を解決するため、市、商工会、JA、漁協等と度々協議を重ね、買い物支援事業を実施しようという運びとなりました。事業の開始当初は1.27件/日の利用がありました。年々増加傾向にあり、現在では平均2.21件/日にまで利用者がふえてきているそうです。配達シルバー人材センターの方1名が担当し、軽4輪のワゴン車でやっているそうです。複数の店舗で購入しても、2000円以上であれば無料で配達してくれます。2000円未満の買い物であれば300円いるそうですが、利用者のほとんどの方が2000円～3000円程度の買い物をするとのことです。市は年間310万円、この事業に補助しています。このモデル事業に賛同している加盟店は市のほぼ中央に位置し、配達に要する時間は、行き戻りで約四十分位です。南北に細長い地形の福津市は面積も井原市の約1/4位で、人口は約5万9千人、人口密度の高い町でもあります。当初、移動販売も考えられたが、現実に移動販売をされている業者の方もたくさんおられるので、民業圧迫を懸念し断念したとのことであります。井原市も買い物弱者に対する支援のありかたについて、今後検討していかなければならないと考えるが、何しろ本市は面積が広大であります。消費者のニーズを十分に聞き取り、対応していくことが大切であろうと感じました。

2) 地方創生、地域活性化にむけて

★ 【基礎編】

○ 武雄市での取り組み

- * はじめに、市の知名度をあげることから取り組んだ。「佐賀のがばいばあちゃん」が新聞、テレビで取り上げられると、役所内に「佐賀のがばいばあちゃん」科を新設し、知名度アップに奔走した。新聞、テレビ等のメディアが注目、報道してくれることで、多くの人たちに武雄という小さな町を知ってもらうことができた。
- * 市のホームページをフェイスブックに移した。
- * 職員の服装を制服着用とせず、自由服装にした。
- * メディアが注目することで知名度が上昇、観光客はじめ、視察希望の団体が急にふえてきた。
- * 日帰り客が多くて宿泊客が少ない。武雄市に長時間滞在してもらい、金を使っただけで地域も潤う。旅館の経営者等に建て替えや模様替えをお願いした。

○フェイスブックを用いることで何が起きたか

- * 市の職員の一部が、武雄市にはこんなうまいラーメンを食べさせる店があります。と多くの人に来てもらいたいのためにフェイスブックに載せた。ところがこれを聞いた職場の課長が「こんなことはフェイスブックに載せるものではない」と言われた。そして職員は、「課長にこのようなことを言われた」と又フェイスブックに載せた。多くの人が見ているフェイスブックに載ったことで当然メディアが騒ぐ。ラーメン店にも多くの人たちがきてくれるようになったし、注目度が上昇したことでいろいろな面で相乗効果がでてきた。
- * フェイスブックには皆が望んでいる情報を載せることができる。

○自治体経営の改革と情報発信

- * 市長と副市長は同室で執務している。行政は副市長以下の職員に任せて、市長は議会事務局にいる時間のほうが長い。何故なら政策を実施するうえで、議会との根回しが非常に重要であるからである。
- * 病院の民営化に当たっては、行政は金を出していない。総務省が30億円で基金を作ってくれた。
- * 行政は中立性、公平性が命である。
- * 行政の満足度調査を実施して市民の反応を見る。
- * テレビ、新聞で世論が形成されているため、情報収集はこれらのメディアで行う。
- * 政策の実行においてスピードは最大の付加価値を生む。
- * 地方ならではの強みを活かすことで、周辺にも波及効果が出てくる。
- * どこの市でも総合計画を定め、将来のあるべき姿を進めていくとしているが、あまり意味がない。なぜなら周囲を取り巻く情勢は日々変化しているからである。

- * 議会でのやりとりをケーブルテレビで放送している。お茶の間の時間帯に放送することで、市民が釘付けになる。劇場化、みえる化の進展で視聴率も10%台から50%まで大幅に上昇した。
- * 条例を武器に人事をする。
- * 放置自転車をネットオークションにかけた。
- * 総人件費の枠のなかで議員定数、歳費も考える。

○ これからの地方議員にむけて

- * 政治家は見た目が大事。健康→70%、笑顔→50%、有権者は元気で明るい感じの人を求めている。
- * その人がどのような人なのか、名刺を渡す前の5秒間の印象できる。
- * 知名度のある人と組む。
- * これからの政策の大きな柱は、病院、書店、住宅の三つである。
- * 一般質問をすることを行政側は嫌う。議員は、市民が行政に対して何を聞いたがっているかを十分熟知して質問をする。
- * 議場にモニターを導入することで議会改革が図れる。
- * 議会において議員は、執行部に数字を聞くべきではない。
- * 地方分権→地方再生→地方創生は一連の流れである。地方創生はここで新たに取り組む政策ではない。
- * 選挙対策⇒市民は結果を求めている。自ら行った成果をどんどん発表すればよい。市民は行政のチェックは求めている。
- * 後援会活動時に玄関に貼ってもらうポスターは、議員とどなたかのツーショットがよい。押しピン、セロテープも持参して貼ってあげればより効果的である。
- * 市政報告会には県議や市長も呼び、より「みえる化」の促進を図るとよい。
- * 行政にはだまされない、言い逃れをさせない。努力します、検討します、はしませんという意味である。
- * 見聞を広めるという意味でも行政視察は重要である。

★応用編

○100万人が来る図書館

- * 改装前には年間96日の休館日があって、多くの人たちが利用しにくいごく普通の公立図書館であった。現在は年中無休で、朝9時から夜の9時まで開いている。指定管理者制度の導入で、TSUTAYA書店が指定管理者となり運営している。スターバックスコーヒーも入居しており、軽音楽を聴きながら読書することもできる。
- * ポイント制を導入した。本を1冊読むと1ポイント。
- * 図書館の私物化時代の利用者→23万人/年間
// 見える化後 // →93万人/年間
- * 改装に当たっては市民総出で引越し作業をした。
- * 改装に当たっては、60歳以上の方をターゲットとしてプランを考えた。
- * 改装の経過を記録に残しておくことが大事である。

○自治体競争を生き抜く勘所

- * 地方の最大の敵は無関心である。
- * 費用対効果を常に考慮して経営に当たる。
- * 儲かる自治体をめざす。
- * フェイスブックで自治体が売れる。
- * 人事院勧告はそのまま受け入れるのではなく、50%は税収増で査定する。
- * 何が何でも公募しなければならないのか。個性あふれるハコモノが求められている時代に公募は不要である。
- * 寒暖の差が大きい棚田にハーブを植えたり、また行政でアボガドの種を購入して民間に植えてもらう。→フェイスブックで行政が売れる。
- * 新しい取り組みはまず行政がやる。そして民間にしてもらう。
- * 自治体が金を持っているのかいないのか、基金残高をみればわかる。
- * 企画のプロセス
守 → 破 → 離
HP → FB → 世界
スティーブジョブス
ウォークマン → アイパッド → アイホン

○武雄氏での教育改革

- * 公立小学校と民間学習塾経営の「花まる学習会」が連携し、官民一体型の小学校をめざし、国語と算数の科目を対象に自然の厳しさ、美しさや多様性、ゲーム感覚で楽しく勉強ができるような教育改革を実施した。
- * 新たに小学校は作らず、現在、市内には小学校が12校あるが、そのうち2校から始めた。
- * 「花まる学習会」では従来どおり教員が教え、塾講師が学習塾の指導方法で助言する。

○ふるさと納税制度の活用方法

- * 地域の特産品を売り出す→ものは売れなくても物語は売れる。
- * 海外市場に進出→シンガポールに8自治体共同で事務所を作った。

所見

講師の樋渡啓祐氏は、2005年36歳で武雄市長に当選、在職期間8年8ヶ月で、その間数々の改革を実行し、成し遂げた功績は計り知れない。私は昨年7月に総務文教委員会の行政視察で武雄市を訪れた。当時、彼は現職でたまたま市議会の議場を見せていただいている時に、時間が取れたからとひょっこり現れて、普通だったら「ようこそ、わざわざ来ていただいて」とかいうものであるが、彼は全くそのようなことは言わず、いきなり議会のことから説明を始めた。そして、自分の言いたかったことだけ言ったらあとは職員にきいてくれである。何と常識のない人だなあと感じたのが初印象である。奥様が岡山県の人だといわれて多少親近感が持てたような気もしたが。でもこんなに早くお会いできるようになるとは思ってもみなかった。もし佐賀県知事になっていたらお目にかかることなどなかったであろうと思うと人生いろいろであると改めて思った。

彼の若さでまだやることはいっぱいあるであろうと思っていたら、このたびの研修でその一端を聞くことができた。彼の計画では、今年8月に自治体スマホ連絡協議会を立ち上げるそうである。高齢者でも使いやすく、安価で、利用料金も抑えたスマホをソフトバンクに開発してもらおう。そして高齢者や糖尿病予備軍にスマホを与え、GPSで居場所確認をしたり、高齢者の安否確認もできる。スポーツをした人や検診を受けた人、万歩計に多く歩数を刻んだ人にはポイントを与え、医療費の抑制を図るという考えである。これこそが新たな公共事業であろうとは彼の主張である。金額にして、約1兆円、言うことも大きいですが、考えることがとてつもなくでかい。6千億円は用意できていて、残り4千億円についてもメドがたったそうである。近年、こども医療費の無料化、高齢者の増加で医療費が膨らみ、自治体の財政を圧迫している。医療費の抑制に各自治体が躍起になっている現状がある。このような社会情勢の変化を受けて、これこそ真の意味での公共事業である。大いに賛同するものである。苦しい財政を預かっている自治体にとって、もしもこれが採用になれば、ようやく新しい光がさしてきたような気分になれるであろう。よい話が聞けて有益な研修会でありました。

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。
2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

様式第2号（政務活動実施報告書）

平成27年 8月12日

井原市議会議員
上野安是様

井原市議会議員 大滝文則

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	平成27年7月28日～7月29日
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	福岡県福津市・福津市役所商工観光課 福岡市博多区・リファレンス駅東ビル：地方議員研究会
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	買い物支援モデル（宅配サービス）事業 イロイロお届け便についての調査 「地方創生、地域活性化にむけて」の講演会
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	元武雄市長 樋渡啓祐氏
5. 活動内容	①7月28日福津市地域生活部商工観光課より取り組みについての経緯と課題について説明をいただきました。 ②7月29日には元武雄市長樋渡啓祐氏より市長時代に取り組まれた政策をもとにユーモアを交えて「地方創生、地域活性化」についての所見をうかがいました。 いずれも別紙の通り報告いたします。

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。
2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

- ① 買い物が困難な市民等に対し、安心して日常の暮らしが出来るように買い物支援をする仕組みを構築する為の制度「福津市買い物支援モデル事業」については、商工振興策・買い物弱者対策・高齢者雇用対策として平成24年12月議会において補正予算を計上し、平成29年まで5年間のモデル事業として、平成25年2月から事業を展開し平成30年からの事業の独立を目指して推進中でした。

高齢者や子育て世代の利用を見込んでいたが、ほとんどは高齢者・独居世帯の利用であり、2,000円以上の買い物については無料配達をしているにも関わらず利用は一日平均2.2件と予測を下回る利用状況となっていました。今後利用者の増加に向けての活動も大変重要な事と感じました。

現在事業の周知方法については広報・新聞ちらし・新聞への掲載・ラジオでの紹介・各種委員会での説明・チラシのポスティング等取り組まれていました。緒についたばかりでまだまだ浸透はしていないのが現状であります。引き続き様々な周知方法を活用して制度を生かして頂きたいと感じました。

井原市においても今後ますます進んでいく高齢化のなか、経験則にない行政サービスの在り方が求められている時代を感じる視察となりました。

- ② 佐賀県武雄市長在任時は、図書館や市民病院を民間委託するなどトップダウン型の改革派市長として知られた樋渡啓祐氏の市長時代の活動を中心とした話、および今後の樋渡氏の活動の中心となる話から地方創生・地域経済活性化の話にいたるまで幅広い講演会でありました。実のところ資料は無し講演会であり、話は幅広すぎてまた「1兆円の事業展開を考えている」など話が大きすぎて私には尺度が違いすぎ「そういう考え方もあるのか？なるほどなあ」といった事を考えさせられることが少ない研修会となってしまい申し訳なく思いながら帰りました。

そんな中で印象に残った話を二つ取り上げ報告に代えたいと思います。

- 1) 本会議での質問の答弁は最初から基本的には部長が行い、決定を要することについての質問についてのみ市長が行ってきた、(実際はついつい話に割り込んでしまう)との話。
- 2) 常に地域経済の効率活性化について考え行動してきた。3万や5万人の町では民間だけで地域経済を引っ張ることはできない。必要以上の基金を積むことなど5万人の町ではする必要がない。行政における投資は積極的に行うべきである。

どちらがいいのか判断は難しいですが、いずれも井原市とはかなり違うやり方です。

平成27年 7月 30日

井原市議会議長
上野安是様

井原市議会議員 宮地俊則

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	平成27年7月28日（火）～7月29日（水）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・陳情活動先	1) 福岡県福津市 福津市役所 商工観光課 2) 福岡市博多区博多駅東1丁目 リファレンス駅東ビル 特別講演（元武雄市長 樋渡啓祐氏） 地方創生、地域活性化に向けて（基礎編、応用編2講座）
3. 研修会等の名称 または視察、要請・陳情活動内容	1) 買い物支援モデル（宅配サービス）事業 イロイロお届け便についての調査研究 2) 地方議会研究会 特別講演 地方創生、地域活性化の研修
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・陳情活動先の担当者名	1) 福津市役所地域生活部 商工観光課長 本多研介 福津市役所地域生活部 商工観光係長 安永紳一郎 福津市役所議会事務局 議事課長 小田雄一 2) 元武雄市長 樋渡啓祐氏

5. 活 動 内 容

1) 買い物支援モデル事業（イロイロお届け便）について

(1) 背景

福津市の昔ながらの商店街をめぐる環境は、長引く不況の影響、大型量販店の段階的な進出もあって年々厳しさを増す中、市として中小企業振興策として何らかの対応が求められていた。一方、市内では土地区画整理事業を実施した地区を中心に新しい街づくりが進み、若い世代は転入・増加傾向にあるものの高齢化率は25%を超えている。特に一人暮らしの高齢者や高齢者のみの所帯については買い物ができない、いわゆる「買い物弱者」の増加が予想され、地域による支えあいがますます重要になってきた。

これらの課題解決のため、市、商工会、JA、漁協等と協議を重ね、買物支援事業（モデル事業）を実施することとなった。

(2) 事業の目的

- ①中小企業振興
- ②高齢者等の買物支援及び見守り
- ③高齢者雇用

(3) 事業の内容

全市民を対象に、食料品や日用品の宅配サービスを実施。商工振興を図るため福津商工会へ事業費を補助し、実施は、商工会内で組織する福間駅前商店会が行う。高齢者就労支援のため福津市シルバー人材センターが宅配業務を担う。

(4) モデル期間

平成24年12月定例議会に補正予算を計上、福津市買物支援モデル事業補助金交付要綱に基づき、平成25年2月15日から事業を開始。平成29年度まで約5年間のモデル事業であり、その後は独立採算による自主事業を目指す。

以上がこの事業の概要である。

その他サービス利用者の事前登録、会費は不要で利用料金も無料（2,000円未満は300円）というものである。

お話を伺う中で、そもそもこの事業は議会側から中小企業振興策等の質問が出たことが直接のきっかけとなりスタートしたそうである。

加盟店も当モデル事業の趣旨に賛同した店舗のみを指定している。

現状はまだ3年目ということもあり、26年度でみると、加盟店22店舗、延べ利用件数545件、1日当たり2.21件と思っただより少ないように感じた。決算も市の補助が310万円で事業としてはまだまだこれからのようである。

今後の課題としてはあくまで5年間のモデル事業のため、30年度から自主事業とできるよう利用者アップに向けた市民へのさらなる周知が必要であると感じた。

担当部局もその努力をすると同時に、今、国が進めている地方創生の対象事業に加われる可能性を検討し、可能であれば要綱の改正を行い、補助期間の延長を模索しているようである。

この事業を井原市で考えると多くのハードルが見えてくる。

まず、本市ではニーズははるかに多いと思われるが、面積が福津市の4倍以上あり、距離的・時間的効率性、採算性が大きな課題となる。民間の宅配業者との競合もあり民業圧迫とならないような仕組みも考えねばならない。実現に向けては本市にあった独自のシステムの構築が必要であり、今後十分な調査・研究が必要である。

2) 元武雄市長 樋渡啓祐氏 特別講演

地方創生、地域活性化に向けて（基礎編）

- 武雄市での取り組み
- 自治体経営の改革と情報発信
- Facebook を用いることで何が起きたか
- これからの地方議員にむけて

地方創生、地域活性化に向けて（応用編）

- 100 万人が来る図書館
- 武雄市での教育改革
- 自治体競争を生き抜く勘所
- ふるさと納税制度の活用方法

これらの内容を市長時代の経験をもとに話され、興味深く受講した。

知名度の低い武雄市を上げるため何をなすべきか？から始まり、武雄市「佐賀のがばいばあちゃん」の誘致からメディアを上手に使う術。TSUTAYA と図書館を組み合わせ、中にスタバまで入れたユニークな計画と実現、そしてその苦労話。

公立小学校と学習塾を組み合わせた官民一体で学校運営を実践しているユニークな教育改革。

これからの取り組みとして Facebook を自治体の情報発信のツールとして活用。それも行政が流したい情報ではなく、市民が見たい、知りたい情報を流すべき！など頷くほか無い話。

議会運営から白熱した一般質問の展開方法などなど。

議会人として、行政に関わる者として納得したり、首を傾げたり、考えさせられたりと大変中身の濃い内容であり、これからの議員活動に大いに参考になるものと思った。

5 時間にも及ぶ講演もその話術に引き込まれ、あっという間であった。

1. 報告書は、政務活動終了後 2 週間以内に提出すること。

2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

様式第2号（政務活動実施報告書）

平成 27 年 8 月 11 日

井原市議会議長
上野安是様

井原市議会議員 井口 勇

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	平成27年7月28日（火）～平成27年7月29日（水）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	1) 福岡県福津市中央1丁目1-1 福津市役所 商工観光課 2) 福岡市博多東当別講演（元武雄市長樋渡啓祐氏）地方創生 地域活性化に向けて（基礎編、応用編2講座）
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	7月28日 13:30～16:00 福津市役所に於いて買い物支援モデル（宅配サービス）事業 イロイロお届け便についての研修及び議場見学 7月29日 地方創生、地域活性化の研修 基礎編 10:00～12:30 応用編 13:30～16:30
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	7月28日 福津市役所 商工観光課：本多課長、安永係長 受け入れ窓口 福津市議会事務局：小田課長、八尋係長 7月29日 元武雄市長樋渡啓祐氏
5. 活動内容	市内商店街活性化及び買い物弱者支援対策としてのモデル事 業への取り組み状況の研修 地方創生、地域活性化に向けての元佐賀県武雄市長の樋渡氏に よる知名度向上に向けた情報発信の大切さや基金を有効に使 い税収アップに向けた事業計画などユニークな方法論の講習 詳細は別紙のとおり

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。

2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

買い物支援モデル（宅配サービス）事業

背景：

商工振興策、買物弱者対策、高齢者雇用対策として平成 25 年 2 月から事業を展開し、平成 29 年度までの約 5 年間のモデル事業とし、平成 30 年度から事業独立を目指している。

目的：

高齢者などお買物支援及び見守り支援・商工振興・高齢者雇用

事業内容：

全市民を対象に、食料品や日用品など宅配サービスをモデル事業として実施し、システムを構築する。事業は商工会へ事業費を補助し、実施は駅前商工会が行っており、配達業務はシルバー人材センターが担っている。

モデル期間：

平成 30 年度までの約 5 年間、その後は独立採算による自主事業を目指す。

実施者：市・市商工会・駅前商工会・シルバー人材センター協働

概要：

営業日／毎日

休み／1 月 1 日～3 日

注文受付時間／AM9：00～PM3：00

配達日・時間／PM1：00～PM6：00（配達日・時間指定あり）

配達料金／無料（ただし 200 円未満は 300 円）

注文受付／直接加盟店へ

加盟店／21 店舗

まとめ：

利用件数は 1 日平均 2.21 件で配送コストが 1 日当たり約 5,750 円かかり、年間総売上 1,638,196 円に対し、市の補助金 3,100,000 円と問題が多く、理想的な取り組みではあるが、課題も多いと感じた。

元武雄市長講演会

地方創生、地域活性化に向けて

武雄市長時代 知名度アップに「さがのがばいばあちゃん」特産品の通販、100万人の来る図書館、市民病院の公設市営、教育革命官民一体授業（公立小学校学習塾）等、色々と大改革をされている。

まとめ：武雄市長時代、武雄市長の知名度アップに、また、行財政改革に多大な貢献をされていることに大変感銘を受けると共に大変勉強になった。今後は何事も官民一体となった取り組みがますます必要だと感じた。